

待降節第4主日の説教

金 大烈 神父 2009年12月20日(日)

《イエス様を喜ばせる良い事》

おはようございます。

今日は1920年代にアメリカで実際にあった話を紹介させていただきます。ある年配の方がパンを盗んで捕まり裁判にかけられることになりました。その裁判で裁判官である判事的那个人を見つめながら「年を取る位取った人が盗み食って有り得ないことだと思いませんか。」と質問しました。その人は冷たい質問を聞いて涙を溢しながら、このように答えました。「私は3日間、何も食べることが出来ませんでした。その為何も考えられなくなりました。」その答えを聞いた裁判官は暫く思い込んでから口を開きます。「どのような理由があってもあなたがパンを盗んだ事は罪です。だからあなたに罰金として10ドルを科せます。」と宣告しました。今の10ドルは千円位ですが、1920年代の10ドルは今の100倍以上の価値があったんでしょう。その話を聞いていた傍聴席の人達が「この判決は、この老人がこんなに困って気の毒な事情があるのに、厳しいのではないか」と騒ぎ出し会場がざわめきました。その時、その裁判官が立ち上がり自分の財布から10ドル出し、「この人の罰金を私が代わりに払います」と言いました。そしてその理由を話し出します。私は今まであまりにも良い物、そしてごちそうを、食べ過ぎてきました。その罪に対しての罰金です。そしてその老人の前で「私はあなたの前で悔い改めます。そしてあなたの様な人々を思いながら裁判に立ちます。」と話しました。そして、傍聴席の人達にもこのように話します。「あなた方も今まで沢山良いものを召し上がったんでしょう。その悔い改めの印としてこの老人の為に寄付をして下さい。この方はこの裁判所出ても何もありません。そして生きる為に又、盗みをするしかないでしょう。その為に私達が助けましょう。」と話しました。そこで人々が寄付をし、集まった金額は47ドルでした。その当時ではかなり多い金額が集まり、そのお金を老人に渡したと言う逸話です。

この裁判で彼は有名になり1933年から1945年までニューヨーク市の市長になります。しかし不幸に飛行機事故で死亡します。そしてこの人のすばらしい心を記念するためにニューヨークの近くにあるハドソン川のそばに空港を立てその名をその人の名前を使って《ラガーディア(La Guardia)》と名付けます。この方は判事になる前に労働者や立場の弱い人、見捨てられた人の為に働いた人としても名が知られていた人でした。そしてその空港の人の目に付く場所に彼についての説明が記されているんだそうです。

今日の福音(ルカ1・39-45)でマリア様がエリザベトを訪問した時にエリザベトは、このように答えます。「あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。」どのくらい喜びがあれば、胎内の子供が踊るんでしょうか？皆様も今4週間赤ちゃんのイエス・キリストを待っています。胎内の子が喜んでおどる位の喜びで待っていたんですか。今日の福音をとおして神様は私達におっしゃっています。「本当に来られるイエス様は私にとってどういう意味を持っているのか。私の家族の為にどのような意味を持っているのか。イエス様が24日の夜生まれる事によって、困り悩んでいる私にとって具体的にどのような意味があるのか」その答えを探さなくてはなりません。イエス様の降誕まで後何日も残っていません。皆様は何をプレゼントとして用意しているのでしょうか？赤ちゃんイエス・キリストの馬小屋に持って行くプレゼントは何でしょうか？

今日《ラガーディア》と言う90年前の人を紹介させていただきましたが、イエス様を喜ばせるプレ

ゼントは《良い事》です。《良い事》は必ず人を感動させます。感動がある所には生き甲斐があります。

皆様、後4日あります。もう一度この待降節をふりかえり、積極的に良い事を行おうとしていたか考えてみましょう。隣に手を伸ばして欲しいと待っている人がいないか見渡して見ましょう。それが何よりイエス様が望んでいる一番大きいプレゼントになると思います。私達の手を必要としている人々は沢山います。私達もイエス様の見業に預かる事が出来るようにもう一度意識しましょう。手遅れと言う事はありません。これからでも出来る限り手を伸ばしましょう。

クリスマスのミサに仕事などで預かれない方もいらっしゃると思います。その方達も、イエス様がお生まれになった日であることを意識し仕事の仲間達に良い事することが出来れば幸いです。

ありがとうございました。